

知事記者会見の概要

日 時：令和5年9月6日(水) 10:01～10:46

場 所：502会議室

出席記者：11名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) 猛暑による農業への影響について

フリー質問

- (1) 県北東部における大規模陸上風力発電事業について
- (2) 認定こども園に対する山形市の改善勧告について
- (3) 高温・少雨の影響について
- (4) 政府によるガソリン補助金の支給延長について
- (5) 岸田内閣改造に係る要望について
- (6) 山形市長選について
- (7) ALPS 処理水の海洋放出に係る風評被害対策について

< 幹事社：読売・日経・YTS >

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

9月に入りました。幾分、しのぎやすい日も見られるようになったんですけども、今後も暑い日が続くことが予測されております。県民の皆様、特に高齢者の方ですとか小さいお子さんには、くれぐれも熱中症にならないよう、ご注意いただきたいと思っております。

こまめに水分をとっていただき、屋内では冷房や扇風機などを適切に利用するなど、熱中症を予防する行動をとっていただきますようお願いいたします。まだまだ油断しないでいただきたいと思えます。

次に、主な秋祭りについて申し上げます。

暑さが厳しかった今年の夏ではありますが、夏祭りや花火大会など、予定通り開催されました。大勢の人でにぎわい、どのお祭りも昨年を上回る入込みとなったようであります。

さて、この秋も各地で様々なお祭りやイベントが開催されます。

そのうちのいくつかご紹介します。9月の14日から17日まで、寒河江八幡宮の例大祭として歴史と伝統のある「寒河江まつり」が開催されます。16日から18日までは河北町で「谷地どんがまつり」、17日には山形市内の馬見ヶ崎川の河川敷で「第35回日本一の芋煮会フェスティバル」が開催されます。そして、23、24の2日間は米沢市で「第10回なせばなる秋まつり」が開催されるなど、県内各地で味覚を楽しむ秋祭りが数多く開催されます。

ぜひ、皆様には体調に十分気を付けていただきながら、各地のお祭りやイベントに足を運び、山形の秋を楽しんでいただきたいと思っております。

次に、東北初となる公立の農林業系専門職大学であります「東北農林専門職大学」の設置について、9月4日に文部科学大臣から認可をいただきました。

令和6年4月の開学に向けて大きく前進したところです。これまで御支援と御協力をいただきてまいりました関係の皆様へ深く感謝申し上げます。

本専門職大学の設置により、優れた技術と経営力、国際競争力を身に付け、農業・森林業のリーダーとなる人材の育成と、現場の課題解決・関連産業の振興に向けた研究等を行い、農業・森林業の持続的発展と地方創生に資することを目指し、開学に向けた準備を着実に進めてまいります。

次に、新型コロナについて申し上げます。

全国の新規感染者は、先週9月1日に公表された1定点当たりの週平均は19.07人でありました。5類移行後の最多を更新いたしました。特に東北地方や北関東の一部などで感染が拡大傾向となっております。

県内では、先週8月30日に公表した1定点当たり週平均20.53人でありました。これもですね、

5類移行後の最も高い値となっております。特に、夏休みやお盆で人と接する機会が増えたことや、猛暑が続いて冷房の際にこまめな換気が難しかったことも影響したのではないかと捉えております。

入院ですが、猛暑で体調を崩した高齢の方が多く、また、複数の病院で院内感染の発生が見られたことなどから、入院患者も増加いたしました。ですが、確保病床以外の入院調整も医療機関相互で進められておまして、全体として直ちに病床がひっ迫する状況にはないと聞いております。県としましては、今後の感染動向や医療提供体制の状況などを引き続き注視してまいります。

一方、オミクロン株XBBに対応したワクチン接種が9月20日以降、各市町村で順次開始されます。このいわゆる「秋開始接種」は無料です。生後6か月以上の希望する全ての方が対象となります。このうち特に、65歳以上の高齢者や基礎疾患のある方は、市町村の通知をご確認いただき、早めの接種をご検討ください。

なお、新型コロナのワクチン接種についてご不明な点に関しましては、お住まいの市町村、または県の「新型コロナ総合コールセンター」までお問合せいただきますようお願いいたします。

県民の皆様には、重症化リスクの高い方への感染を防ぐということが大事でありますので、換気の徹底や、医療機関や高齢者施設を訪問する際のマスク着用など、場面に応じた感染対策を心がけていただきますようお願いいたします。また、発熱等の体調不良時に備えて、検査キットや解熱鎮痛薬などをあらかじめご準備されるようお勧めいたします。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

日本経済新聞の増渕です。よろしくお願いたします。

この夏の記録的な猛暑を受けての県の一次産業対策について伺いたいと思います。知事もおっしゃったようにようやく沸騰するような暑さは峠を越したように思われますが、8月はまさに「かつて日本一の暑さを誇った山形県」を彷彿とさせるような暑さでした。この猛暑で、全国的に農業とか畜産業への影響を報じるニュースも出始めています。そこで県として、現状で把握しているそういった農業・畜産業被害の実態があるかどうか、懸念している被害があるかどうか、そういったものに対してどういうふうに対策をしていくのか、さらに、またその想定以上に被害が膨らんだ場合の対応について、知事のお考えをお聞かせください。

知事

はい。本当にこの夏は、県内各地で8月の平均気温が観測史上1位となるなど、記録的な高温少雨となりました。9月に入り、ようやく県内各地で降雨がありましたけれども、これまでの高温少雨で一部農作物への影響が見られております。

まず、水稲についてです。刈り取り適期が7日から10日ほど早まり、刈り遅れによる品質低下が懸念されますので、9月4日にキャラバンを行い、適期内の刈取り等について生産者に呼びかけているところです。

一方で、水不足が懸念されておりますが、農業用水が必要な期間は、概ね今週末までとなっております。引き続き農業用水の反復利用や河川管理者との調整などで、農業用水の確保に努めているところです。

また、果樹につきましては、果実の日焼けや果肉障害、野菜ではアスパラガスやにらなどの収量低下など、一部で影響がみられるところでもあります。

さらに平年を上回る高温・少雨が続く場合に、果樹では、果実肥大の停滞に加え、りんごの着色遅延などに伴う品質低下が、そして野菜では、えだまめの晩生品種の収穫量の減少や、白菜等の秋冬野菜の生育停滞等の影響が懸念されます。それで、気象状況に応じた栽培管理と厳選出荷を指導してまいります。

農家の皆さんには、こまめな水分・塩分補給、十分な休憩など、引き続き熱中症対策に留意されますようお願いいたします。

高温・少雨による農作物等への影響が少なくなるよう、対策の徹底について呼びかけを行っているところでありますが、引き続き状況を注視しながら、必要に応じて支援を検討してまいります。

どうい影響があったかということ、やはりつぶさに現場の実態をですね、把握しながら対策を考えていきたいと思っております。

記者

まだその実態として被害が出てきているみたいな、そこまでは至っていないというところですか。

知事

そうですね。ちょっと細かい話になるんですがありますけれども、果樹ですとデラウェアはですね、着色がやや劣ったが食味は良好だったとか、りんご・ぶどう・なし・柿に、日焼け果というんですけれども、日焼けが見られたり、桃・りんごでは果肉障害の発生が例年より多く見られたということです。りんご・ぶどうでは一部で収量低下が確認されているといったことが、今私の手元には来ているところです。

記者

わかりました。ありがとうございます。

☆フリー質問

記者

おはようございます。山形新聞の鈴木です。

まず1点目。舟形と最上と尾花沢に跨る山中に関西電力が風力発電の事業化を検討しているということです。現段階での県としての、この事業に賛成か反対か、スタンス、考え方などを教えていただけたらと思います。

知事

はい。その件につきましてはですね、お待ち下さい。

関西電力の風力発電事業につきましては、県の再エネ条例（「山形県再生可能エネルギーと地域の自然環境、歴史・文化的環境等との調和に関する条例」）に基づいて、同社から県に協議が提出されており、調整を重ねているところです。

この度の事業計画の予定地は、尾花沢市、舟形町、最上町に跨る大規模な事業計画であります。それで、近年豪雨による自然災害が頻発激甚化しており、土砂災害への懸念が高まっております。それから豪雪地帯でもあるわけですね。豪雪地帯であることから、冬期間、冬の維持管理をどうするのかなど、多くの課題があって、同社に対して説明を求めています。今回報道のあった希少猛禽類のイヌワシにつきましては、その調整の中で、新たに飛翔が確認されたものであり、関西電力に対して、その生息についてしっかりと調査を進めてもらうよう要請をしているところであります。

再エネ導入は、地域の理解や自然環境との調和が大前提であります。イヌワシは、国の天然記念物であって、環境省のレッドデータブックに絶滅危惧種として位置付けられております。県としては、将来に渡って、生息できる環境をしっかりと保全していくべきものと考えているところであります。

記者

ありがとうございます。今のお答えですと、イヌワシが今後も生息していける環境を保全すべきだというお考えだということは、今の段階ではそちらの事業化については、県としては、知事としては、あまりどんどん進めてほしいという立場ではないということですか。

知事

そうですね。イヌワシも大変貴重な猛禽類でありますし、あと、近年、本当に毎年のように土砂災害とかですね、大雨災害が起きておりますので、やっぱりそういうところも自然災害に対してどういうふうに対策していくのかということもありますので、限りなくやはり、そういうことを考えなければいけないという思いであります。

記者

はい。ありがとうございます。もう1点、別な話をお聞きします。

山形市の認定こども園のことだったんですけれども、男性園長が子ども達に性的虐待などをしたなどとしてですね、山形市から改善勧告を受けています。山形県としては、この事案にどのように対応しているのか、そして今後行政指導などの見通しなどがあれば教えてください。

知事

はい。子どもが安心して安全に過ごすべき場所である認定こども園において、指導監督を行う立場の者が、このような行為を行っていたとすれば誠に遺憾であり、言語道断であります。あつてはならないことだと思っております。性的虐待について本人は否定されているようですが、今回、山形市が詳細な調査を行い、事実認定したことを承知しております。

今般の市の改善勧告において、園に対し、虐待防止そして適切な職員配置、給付費の返還などが求められているところであり、園として真摯に対応していただきたいと思っております。

県としましても、山形市と連携して、学校法人を所管する立場から、法人の運営について、しっかりと指導してまいります。

記者

ありがとうございます。

記者

河北新報の奥島です。よろしく申し上げます。

先ほどの山形新聞さんの風力発電の質問にちょっとかぶる部分もあるのですが、今の知事のお考えを、もう一度確認なのですけれども、現段階の実施内容には懸念を抱いていると、こういう認識でよろしいでしょうか。

知事

そうですね。自然災害が発生した時にね、土砂災害が発生するという、そういう懸念が大変大きいですし、また、新しくですね、イヌワシの生息というものも分かってきておりますので、やはり大変そういった諸々のことを考えますとですね、なかなか対策というのは難しいのではないかというふうに、現時点で捉えているところです。

記者

ありがとうございます。あと、すいません。最初のですね、高温少雨の件で追加でお伺いしたかったのですが、農作物被害の他、県内では熱中症による死亡事例ですとか、搬送も後を絶たない中で、かなり豪雨だったりとか豪雪だったりとか、そういうものに近い被害が出ているのかなというふうに、災害のような被害が出ているのかなと思うのですが、この高温に対する

あらためての認識と言いますか、お聞かせください。

知事

観測史上最もやはり、平均気温が高かったということで、県内の各地点でそういう内容だったということで、本当にこの夏はですね、熱中症になりやすかったと言いますか、大変危険な暑さというものも続いて、県民の皆様大変な思いをされたというふうに思っています。

この暑さがですね、まだ今日は一時、ちょっとしのぎやすい気がするのですがけれども、9月の予想を見ますと、予測ではまだ30度以上というのが出てまいりますので、まだまだ油断できないなというふうに思っているところです。涼しくなるべき、この秋がですね、まだ夏の続きのような状況だと思われまますので、くれぐれもまた熱中症にならないような行動をとっていただきたい。くれぐれも注意していただきたいというふうに思っているところです。

いろいろな対策が必要かなと思いますけど、まずは個人的に対策をとっていただくということ、それから、学校現場とかですね、そういったところでは、できる限りの対策も検討していくというようなことをやはり、しなければいけないというふうに思っています。

記者

対策としてですね、例えば、すいません、県の枠組みを正確に把握していないのですが、対策本部の設置ですとか、もしくは具体的な支援策について何か考えていることは、現段階でございませうでしょうか。

知事

そうですね。今、対策本部設置ということは、ちょっとまだ来ておりませんが、来年と言いますかね、これからも夏の危険な暑さが続くというようなことも考えられますので、やはり、学校現場とかですね、子ども達の安全を守るということがとても大事でありますので、たとえばですね、体育館への冷風装置みたいなものをね、検討しているところです。

まだ議会は始まっておりませんので、詳しいことは申し上げられないのですがけれども、でも本当にやはり、しっかりと対策をとって、ソフト・ハード両面で対策をとっていく必要があるなというふうに思っております。

記者

NHKの岡野と申します。よろしくお願いたします。

すいません、先ほどの高温・少雨でちょっと繰り返になってしまうのですがけれども、去年ですね、ふるさと納税の額が、山形県が全国6位ということで、その中でも果樹とかお米の占める割合が多かったと思うのですがけれども、今回の8月の着果不足とか、ふるさと納税に影響している部分があれば教えていただきたいのですがけれども。

知事

はい。そうですね、最も人気が高いのは、たとえば果樹でありますと、さくらんぼなんですけれども、それは季節が終わってしまいました。また、桃とかですね、ぶどう、りんご、その後はシャインマスカットも出てきますけれども、人気が高いところだというふうに思っておりますけれども、ふるさと納税にどのくらい影響するかというのは、ちょっとまだ、担当から情報を得ておりませんので、申し訳ありませんけど、今ちょっと手元にはお答えできる資料がありません。

本当に、ただ、もしね、大きくならない、たとえば果実がですね停滞すると言いますか、小ぶりだったりするかもしれませんけれども、糖度は高いんですね、暑かったから。着果不良とか、着色不良ということもあるんですけれども、糖度は高いというふうに聞いておりますので、食べては美味しいということが言えると思います。やっぱりその辺をきちんとね、説明をしながら対応していくことが大事かなと思っております。

記者

ありがとうございます。もし、事務方の皆さんで、ふるさと納税への影響を把握されていたら後ほど教えていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

知事

わかりました。

記者

あと、もう1点。これに関連してなんですけれども、農家さん大変苦しい状況になっていらっしゃると思うのですが、知事の言葉であらためてですね、どのように気をつけてほしいか、呼びかけをちょっとお願いしたいのですが。

知事

本当に、高温・少雨ということで、この夏は本当に生産者の皆さんは、ご苦労されていると思います。そして、最も大事なことは、生産する方々の皆さん自身の健康が私としては一番心配であります。まずは、熱中症にならないように対策を行っていただきたいということと、あとは、実りの秋を間近に控えておりますので、たとえば水不足でありましたら、皆さんでやはり支え合いながらですね、助け合うということで、水を管理してくださっていると聞いてはいるのですが、あらためてまた、皆さんで協力しながら収穫期を迎えていただきたいというふうに思っております。

記者

ありがとうございました。

記者

テレビユー山形、矢野と申します。

高温少雨の件でまた1件追加でお聞きしたいのですが、先ほどの水不足の件ということで農業用水の反復利用のお話などありましたけれども、水不足の影響としてたとえば、ダム貯水率だったり、何か具体的な指標ですとか、影響として報告が上がっているものなどありますでしょうか。

知事

はい。高温・少雨ということで、すいません、ダムの前にですね、舟下りなんですけど、少雨のせいで最上川の水位が下がったということで、8月23日から9月4日まで、最上川三難所舟下り、村山市なんですけどね、そこでは運行を休止していたと聞いております。本日から再開するということがあります。(補足：最上川三難所舟下りの運行については、本会見前日の9月5日に再開している。会見終了後に説明内容の訂正を行った。)

また、川西ダリア園もですね、猛烈な暑さと少雨によって、開花している花が非常に少ないということで、半額の入園料としていると聞いています。

今後、気温が下がってきますと、株も息を吹き返すので、10月に入ってから咲いてくると見込んでいるということでもあります。

ダムについてもね、聞いたのでありますけれども、たとえば企業局は、6つのダムで水道用水供給事業を行っているのですけれども、現在の貯水量は例年並みまたは例年より少ないものの、用水確保に影響はないと聞いています。ただ、農業用ですね、水窪ダム、(新)鶴子ダムについてはですね、影響はないというふうに聞いているんですけれども、昨日ちょっと雨が降ったというようなこともあってね、ちょっと一息つけるのかなというふうに思っています。

本当に大変な夏でありましたけれども、少し9月に入ってから雨マークも出てきましたので、なんとかしのげるのではないかとというふうに思っているところです。

記者

ありがとうございました。

記者

読売新聞の仲條です。

少し戻ってしまうんですけれども、風力発電の関係です。吉村県政はですね、再生可能エネルギーの導入という点では積極的に推し進めていらっしゃるスタンスかと思うんですけれども、庄内地域では県営の風力発電所もあるかと思えます。

それであらためての確認なんですけれども、その風力発電所の建設推進という点においては、

知事のお立場としては、エネルギー需給の関係からすると、積極的に進めていきたいというお考えはお変わらないということでしょうか。

知事

はい、それについてはもちろん変わらないんですけども、さまざまな地元の事情ということも考えながら進めていかなければならないと思っております。

記者

今回の関西電力さんのケースで言うと、陸上風力の形かと思うんですけども、たとえば洋上風力ですとか沿岸の風力と今回の内陸部、山岳部も跨っているんですかね、あぁいった土地での風力発電の建設というところで、立地条件で知事として憂慮というか懸念があるという、そういうお考えなのでしょうか。

知事

そうですね。陸上ですと、先ほど申し上げたように、自然災害が発生した場合にね、土砂災害などが起きます。また、豪雪地帯でもありますのでね、その対策をどうするのかということをやはりしっかりと考えて実施しないと、地元にとってやはりどういうことになるのかというのが大変懸念されますので、イヌワシといったこともありますけれども、自然災害も、この数年ですね、全国的に多発している。しかも激甚化しているということがあります。線状降水帯がですね、本県でも昨年発生したわけでありますので、本当にこの大変な状況ということもやはりきちんと考えながら再エネを進めていくということだと思っております。

記者

承知しました。ありがとうございます。

記者

日経新聞の増刷です。

ガソリン高について伺いたいと思います。(資源) エネルギー庁が今日発表する先週のガソリン価格も、またもしかしたら最高値を更新するみたいな見方もあります。こういった中で、政府はガソリンへの補助金の延長を決めましたけれども、こういった補助金でガソリン高を対応していくという政府の考え方について、吉村知事はどういうふうにお考えでしょうか。

知事

はい。ガソリン高になりますと、やっぱり企業活動はもちろん、県民生活にもやっぱり影響はですね、避けられないというふうに思っています。

特に今後ですね、冬になりますと寒くなりますので、灯油ということにも影響してくるのか

なというふうに思っていますので、やっぱり政府として補助金を出してでもやはり企業活動や国民生活というものをですね、支えていくというのはやっぱりありなのかなと思っています。

記者

その中でも山形県というのは全国的に見てもガソリン価格が高い県だという感じがしますがけれども、県として今のガソリン高に対しての何らかの対策みたいなところは考えていらっしゃいますでしょうか。

知事

そうですね、政府の動向というものをしっかり注視しながらですけどね、県として何ができるのか考えていくというか、それが基本姿勢ですね。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

さくらんぼテレビの白田です。

風力発電についてです。去年の蔵王の川崎での計画と同じ関西電力ということで、去年の蔵王の時は村井知事（宮城県知事）が「なんで東北でやるのか、関西でおやりになれば」という発言があって、それに対して吉村地知事も同様の思いだったというふうにおっしゃっていました。今回の関西電力の計画については、同じような思いはありますでしょうか。

知事

そうですね、やっぱりそういう思いはありますね。ただ、それだけということではなくて、根底にそれはありますけれども、やっぱり自然災害が起きたらというようなことがやっぱり一番強いですし、それからそのレッドデータブックに載っているような猛禽類がですね、生息しているといったことはやっぱり守っていくべきだろうなというようなことがあります。

記者

わかりました。

記者

すいません、読売新聞の中条です。

一部報道ベースですけども、岸田政権、内閣改造を来週にもするのではないかというような報道が出ております。実際に改造してからお伺いすることかもしれないんですけども、吉村知事から見ると、岸田政権、内閣を刷新するのであればよりこういう点に力を入れてほしい

というような、要望ですとか観点などございますでしょうか。

知事

そうですね、やっぱり国民の生活ということですね。しっかり把握されて、そして地方自治体と一緒にあって地方でも気持ちよく住み続けることができるような、そういった政策を最も望んでおります。それに適したような方々を選んでいただくというのがよろしいのかなというふうに思っています。

非常に漠然とした答えですけど、あまりコメントのしようがないですね。

記者

わかりました。すみません、ありがとうございます。

記者

時事通信の海老沼です。よろしくお願ひします。

ガソリン価格の高騰についてなんですけれども、先ほどお話でもあったように、政府は補助金を出して価格高騰を抑制する対策をするということで、これが期間としては今年の年末まで予定しているとのことなんですけれども、この期間に対して何か、もっと延期したほうがいいのか、お考えがありましたらお願いします。

知事

そうですね、先ほども申し上げましたけども、東北地方、山形県は豪雪地帯でありますので、冬、非常に寒くなりますので、冬の灯油の価格が上がらないようにしていただきたいというふうに思っていますね。すごく県民みんなに影響が及ぶことでありますので、冬の間ということも加味していただければというふうに思います。

記者

ありがとうございます。

記者

すみません、あらためてNHKなんですけれども、山形市長選挙が今週末、投票日を控えておりますが、知事もですね、両陣営に為書きを送られているという形で認識しているんですけども、知事のスタンスといいますか、そのあたりをお聞かせいただいてもよろしいでしょうか。

知事

はい。そうですね、山形市といえばやっぱり県都でありますし、県都の市長を決める大事な

大きな選挙だというふうに思います。お二人が立候補されておりますけれども、それぞれのお考えをですね、しっかりと示していただいて、また、市民の皆さんには、選挙というのは本当に重要でありますので、ぜひ投票所に足を運んでいただいて、投票率が下がらないようにと言いますか、投票行動をしっかりと取っていただきたいなというふうにと考えています。

お二人の候補者にはそれぞれのお考えというものはっきりと、繰り返しになりますけど、市民の皆さんにお知らせいただいて、そして私自身も市民の一人ではあるんですけどもね、お二人とも本当によくいろいろなことをお考えになっておられる方でありますので、本当に市民の皆さんのご判断でお一人が当選されるということになりますので、当選された場合はですね、県都山形でありますので、県と連携してしっかりと発展に向けてご協力いただきたいなというふうに思っているところです。

記者

知事はお二方を支援されて、そのあたりを言える範囲で、どうでしょうか。

知事

そうですね、お一人は市長会の会長として県政にも御協力をいただいているわけですし、またもう一人の方は、ずっとですね、支援をしてきていただいた方だというようなこともございまして、本当にお二人で正々堂々闘っていただくというか、選挙ですから、そういうことを望んでおります。

記者

ありがとうございました。

記者

毎日新聞の熊田です。よろしくお願ひします。

先月24日に福島原発の処理水の海洋放出が始まりまして、その後、国内外でいろんな反応が出ておりますけれども、中国とかの対応はともかくですね、国内のいわゆる常磐ものとか、宮城県沖の水産物とかの風評被害防止、それから消費拡大等で、福島それから宮城の知事とかと知事との間でですね、「山形県でもこういうキャンペーンをやりましょうか」とかですね、山形の場合、実際、日本海側のほうで漁獲等をしていながら太平洋側の水産物の支援というふうな形になるのはなかなか大変だとは思いますが、両知事とかとですね、「こういうキャンペーンをやるけどどうだ」とか、そういうお話とかされていたりとかしていますでしょうか。

知事

そうですね、ALPS処理水というのが放出されるのは福島県でありますので、そこがやっぱり最も直接的な風評被害が出るかと思えます。それで応援デーといったことで、福島を中心に

ですね、常磐地域の水産物を県庁の食堂で応援デーということを設けてみんなで応援しようという、シンボリックな取組みとしてそれを今月下旬から実施に向けて現在調整を進めていると聞いております。

そういったことを多分記者会見で申し上げたのをですね、お聞きになったかと思うのですが、福島県知事から御礼の電話がございました。あいにく私は直接は受け取れなかったんですけど、出かけておりましたので、ただ、大変心強く思うという御礼の電話でありました。

やっぱり科学的にしっかりとですね、根拠をもって安全だということをお示ししながら放出もされるわけでありますので、われわれ近隣県はもとより、国内、また海外もですね、そういった受止めをしっかりとさせていただくのが大事かなと思っています。シンボリックにその応援デーということで私も食べに行きたいというふうに思っております。

東北六県に関しては、東日本大震災の折にですね、あの時も原発事故というのが起きて、本県も間接的な影響はございましたので、本当にその「東北はひとつ」というような思いを持ってですね、みんなで助け合うというようなことをやっぱり堅持していきたいというふうに思っています。

政府に対して申し上げたいのは、やっぱり科学的根拠というものをずっとお示しいただくということと、風評払しょくのためのさまざまな活動、国際的な調整とかいうことをきちんと行っていただきながら、実際に水産業においてですね、影響が出た場合はそれに対してしっかりと補償をするということを実際に行っていただきたいというふうに思っています。